科目ナンバリング	U-LAS05 20017 LJ23				
授業科目名<英訳>	地域地理学各論Ⅰ（日本） Topics in Regional Geography I (Japan)	担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	山村　亜希	
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	火3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

地域とは、固有の環境の中で長い年月をかけて人間社会が形成した土地の個性である。本授業では、このような歴史地理の産物である地域の成り立ちと仕組みを考える。本授業では、地理学の視点から、日本各地の都市が、いかなる地理環境と歴史条件の下に形成され、どのような変遷を経て、今に至ったのかというプロセスを考える。具体的には、日本各地の城下町と京都を事例として、地図をもとに、地域の成り立ちと仕組みについて解説する。京都を対象とする場合は、京都の全体像を捉えるときもあれば、京都を構成する小地域（四条河原町、下京、岡崎、山科など）を取り上げる場合もある。授業は、解説だけでなく、グループでの読図やディスカッションも交えて行う。
本講義は「歴史と地理が現代都市を作る」プロセスを地図上に可視化し、それを説明する人文地理学（歴史地理学）の視点と方法をベースとする。多様な地形図・古地図の読図や着色作業を、受講生各自が行いながら進めるので、毎回、地図に向き合って受講することになる。高校レベルの地理・日本史の知識はなくても良いが、あった方が理解は深まる。少なくとも、地理・地図・日本史への興味を持って受講して欲しい。

[到達目標]

地図から、地域の成り立ちや仕組み、特徴を考察する視点・方法を身につける。現代日本における諸地域の特性について、人文地理学・歴史地理学の視点から深く多角的に考察できるようになる。

[授業計画と内容]

授業の進行状況に応じて、順番やテーマを変更することもある。

第1回　概要説明
第2回　今に生きる名古屋城下町（１）：地形と城の立地
第3回　今に生きる名古屋城下町（２）：町人地と近代化
第4回　長良川と2つの城下町・岐阜（1）：信長の戦国城下町
第5回　長良川と2つの城下町・岐阜（2）：近世城下町と第三の核
第6回　火山と共生する城下町・島原（1）：地図にみる災害
第7回　火山と共生する城下町・島原（2）：良港と城下町
第8回　消えた平安京、生き残る平安京
第9回　中世京都と祇園祭・辻子
第10回　場末から繁華街へ－寺町が四条河原町になるまで－
第11回　古都の近代化ー「白河」から「岡崎」へー
第12回　山科盆地の歴史地理
第13回　京都の新旧地形図を読む
第14回　総括
第15回　フィードバック（フィードバック期間中に行う）

地域地理学各論Ⅰ（日本）(2)へ続く↓↓↓

地域地理学各論Ⅰ（日本）(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート60%、平常点（授業への参加状況、小テスト）40%

[教科書]

毎回、地図を中心とした大判のプリント（A3サイズ・2枚程度）を配布する。複数回で連続で使用し、前回の読図・着色作業を前提として講義を続ける場合も多いので、前回分も持参すること（ファイリングして持参がベター）。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習：授業中に終了しなかった読図・着色作業を行う。また、授業で紹介する参考文献を読んだり、読図や講義内容からの気づきを忘れないうちにメモしながら、授業内容を自分なりに文章化してまとめることが復習となる。

[その他（オフィスアワー等）]

授業中に地図や図表に着色するなどの作業を行うので、色鉛筆・マーカー（赤・青・黄色・緑の4色）や色ペン複数色を持参する。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部